

### 第 1 回生徒による授業評価の分析

1. 学年毎の傾向（評価 3，4 の割合） ※網掛けは 80%未満のもの。

○ 1 年生

	A	B	C	D	E	F	G	H
国語	87%	88%	86%	92%	85%	76%	88%	94%
地理歴史	94%	85%	90%	77%	93%	86%	86%	94%
数学	98%	75%	88%	88%	97%	89%	91%	96%
理科	88%	73%	74%	72%	80%	79%	89%	93%
芸術	98%	94%	94%	88%	96%	97%	92%	98%
体育	92%	96%	92%	83%	92%	92%	92%	98%
保健	90%	90%	87%	71%	92%	79%	79%	93%
外国語	84%	74%	73%	90%	80%	72%	88%	92%
情報	99%	86%	91%	76%	96%	93%	90%	95%
総合	89%	88%	87%	96%	88%	83%	87%	93%

○ 2 年生

	A	B	C	D	E	F	G	H
国語	96%	91%	95%	90%	96%	93%	92%	95%
地理歴史	94%	75%	85%	79%	93%	84%	87%	90%
公民	96%	81%	90%	97%	96%	86%	83%	94%
数学	83%	70%	72%	73%	82%	75%	88%	89%
理科	97%	77%	93%	90%	97%	92%	90%	93%
体育	97%	98%	95%	93%	96%	95%	93%	96%
保健	97%	95%	95%	87%	97%	92%	92%	95%
外国語	96%	83%	91%	93%	94%	91%	89%	92%
家庭	93%	85%	89%	83%	95%	86%	85%	88%
総合	94%	94%	93%	99%	94%	92%	91%	90%

○ 3 年生

	A	B	C	D	E	F	G	H
国語	95%	91%	94%	86%	96%	92%	93%	94%
地理歴史	97%	92%	95%	93%	96%	96%	93%	93%
公民	100%	93%	96%	100%	96%	100%	89%	96%
数学	95%	86%	88%	94%	96%	91%	92%	96%
理科	95%	84%	90%	84%	98%	95%	98%	97%
体育	96%	99%	96%	95%	97%	97%	98%	99%
外国語	94%	88%	91%	90%	93%	91%	94%	93%
総合	94%	95%	95%	94%	96%	90%	92%	95%

※ A：授業の準備・教材の工夫      B：授業の充実感      C：授業の進め方  
 D：生徒主体の授業の工夫      E：説明のわかりやすさ      F：生徒への接し方  
 G：学習への取組      H：態度・姿勢  
 A～C：授業内容      D～F：指導方法      G～H：本人の取組状況

## 2. 学年毎の傾向の特徴

### ○全体的傾向

全体的には高い傾向にある。特に、「H：態度・姿勢」の評価はかなり高く、ほとんどが9割以上と生徒の学習意欲は高い評価である。また、「A：授業の準備・教材の工夫」「E：説明のわかりやすさ」においてもほとんどが9割以上となっており、教材の工夫や説明により単元内容がうまく生徒に伝わっているとわかる。

昨年度、3年生においては、第1回授業評価の8割未満は2教科2項目であったが、今年度は8割未満の項目はなしと大きく改善している。しかし、1年生においては、6教科12項目から7教科14項目に増えており、2年生においては、2教科4項目から3教科7項目と増えている。今後、改善が必要である。ただ、44期生、45期生別で見ると、44期生2年次2教科4項目→3年次はなし、45期生1年次6教科12項目→2年次3教科7項目と著しい改善が見られる。

例年の課題でもある「D：生徒主体の授業の工夫」は、1年生においては改善傾向にあるものの8割未満の教科が4教科あり、2年生においては2教科ある。3年生は2教科から0教科になり、かなり改善した。また、「F：生徒への接し方」は8割未満が全学年で2教科であったが今年度は5教科もある。その中でも1年生は4教科と多く、理由として中学と高校の授業進度の違いに戸惑いを感じているものと考えられる。しかし、そのような状況下であっても授業改善できるよう努めていく必要はある。

### ○国語

全体的に高い傾向にある。特に2年生はすべて9割台であり、3年生はほとんどが9割台である。課題であった「D：生徒主体の授業の工夫」は、各学年で高い評価を得ている。ただし、1年生において「F：生徒への接し方」が8割未満となり、今後改善が必要である。

D「生徒主体の授業の工夫」以外は全て9割台と高い評価を得ている。Dについては、前年の1回目（82%）よりは良いものの、2回目（90%）に比べるとやや低めの評価となっている。アンケートや授業における生徒の声を反映しつつ更なる向上を目指したい。

### ○地理歴史・公民

全体的に高い傾向にある。特に3年生は地理歴史、公民がほとんど9割以上で100%が3項目もある。1年生では「D：生徒主体の授業の工夫」、2年生では「B：授業の充実感」「D：生徒主体の授業の工夫」が8割未満になっており、改善が必要である。

教科の特性として講義形式の授業が多くなってしまい、生徒主体の授業がなかなか展開できない。定期テストの返却時など機会をみて、生徒主体の授業のあり方を検討して実践していきたい。授業中にタイミングをみてペアワークなどを行うようにしたい。

### ○数学

1年生では、昨年度8割未満が6項目→今年度1項目と改善している。2年生では3項目→4項目と増やしたが、内容はほとんど平行している。3年では1項目→0項目と改善し、「D：生徒主体の授業の工夫」については昨年度の79.8%から94%に大きく改善した。全体的に改善はしているが、各学年で「B：授業の充実感」は各項目で最下位であり、今後の課題である。

授業評価で1学年の評価が改善した原因としては、昨年度と比べより内容の細かい教科書に変え、きめの細かい指導ができるようになったことが大きく影響したものと考えられる。また、2学年で「授業の充実感」や「授業の進め方」の評価が低い原因としては、数学Bにおいて標準クラスと発展クラスの数比率が前年度と大きく変化したことにより、授業内容が本人の能力と合わなかったり、期待していたものと異なっていたりした生徒がいた可能性が考えられる。9月のクラス再編成により、どのように評価が変化するか見守りたい。

## ○理科

1年生では、昨年度8割未満が0項目→今年度4項目と増えており、今後改善が必要である。2年生では、「B:授業の充実感」のみが例年通り8割未満になったが、他の項目に関してはすべて9割以上と高い評価となった。3年生では昨年と変わらず、高評価である。

理科としては、今回の授業評価の結果はおおむね良好であると結論した。そして、生徒の授業の充実感を高める方向で具体的に何ができるかを取り上げて検討した。

1年生が授業の充実感を得られていないのは、理解が不足しているからと考えられる。そこで、もう少しいいな解説を心がけ、よく理解させることで授業の充実感を上げていくこととした。このことについては、次回の授業評価の結果を見て評価したい。

2・3年生は1年生とは異なり、授業はよく理解できているようである。そこで、長中期的に授業の充実感が高まることを期待し、短期的には諸項目の数値が下がるかも知れないが、授業の難易度を少し上げてみることにした。このことについては次回の授業評価の結果だけでなく、長中期的に推移を見守りたい。

## ○保健体育

体育は全体的に高い傾向にある。2、3年生はすべての項目において、9割台と高い評価である。1年生においては、高い傾向の中でも「D:生徒主体の授業の工夫」が各項目で一番低い結果となったが、昨年の79.7%から考えると83%となり、改善していることがわかる。

保健の2年生はほとんどが9割以上と高い傾向にある。1年生で昨年度8割未満が1項目であったが、今年度は3項目と増えている。特に「G:学習への取組」は79%と低く、生徒の勉強意識（教科の優先順位）が低いことが考えられる。

体育の授業については、すべての学年でどの項目も9割後半の高い評価となっている。しかし、その中で1年生の「D:生徒主体の授業の工夫」で8割前半であったり、「C:授業の進め方」や「E:説明のわかりやすさ」等でもやっと9割という評価を考えると改善の余地がある。ただ、1年生はどの種目でも基礎を固める必要があるため、生徒主体でというよりも教員主導での指導が中心となる傾向にあるのは仕方ないことである。

保健の授業については、1年生の授業で8割に満たない項目が3つありますが、「D:生徒主体の授業の工夫」としては、“3分間スピーチ”や“グループ活動”等にも取り組んでおり、評価項目の観点がしっかり理解されていないことも一因である。また、「G:学習への取組」の評価が低くなっているが、受験科目ではないこともあり、一生懸命になれない生徒が多くいることは理解できるが、そんな中でも生活に密着した重要な内容であることを生徒に理解してもらいながら授業を進めていきたい。

## ○外国語

全体的に高い傾向にある。2・3年生はすべて8割以上という結果になった。「B:授業の充実感」は2年83%、3年88%となり、昨年から維持している。1年生では、8割未満が3項目あり、改善が必要である。

生徒の授業への「充実感」について教科内で話し合いを行った。入学年次よりも学年が上がるにつれ、数値が上がっていることは良い傾向だと考えられる。しかし「先生の説明はわかりやすいが、充実感がやや低い」といえる評価結果がある。「充実感」そのものは、千差万別で人それぞれ異なっている。ゆえに授業がワンパターンの手法にならないよう、さまざまな工夫を行うべきだという結論に達した。一方で、1クラス2展開など少人数化できると、ひとりひとりの生徒と、より密接に関わりをもてるようになり、生徒の「充実感」も上がるのではないかという意見も見られた。

## ○総合

全体的に高い傾向にある。2、3年生ともにすべての項目において、9割以上である。1年生においては、8割台が多い。

総合的な学習の時間では、探究学習を行っており、1年では特に探究力を養うための基礎づくりを行う。この学習の有用性を生徒・教員ともにしっかり共有し、よりよい学びとなるようアイデアを出し合っていくことを課題に取り組みたい。

3. 教科毎の傾向（評価3，4の割合）

	A	B	C	D	E	F	G	H
国語	95%	91%	94%	86%	96%	92%	93%	94%
地理歴史	94%	83%	89%	80%	94%	87%	87%	92%
公民	96%	82%	90%	98%	96%	88%	84%	94%
数学	91%	74%	81%	82%	90%	83%	90%	93%
理科	94%	76%	85%	82%	91%	87%	91%	93%
芸術	98%	94%	94%	88%	96%	97%	92%	98%
体育	95%	97%	94%	90%	95%	95%	94%	98%
保健	94%	93%	91%	79%	95%	85%	86%	94%
外国語	91%	82%	85%	91%	89%	84%	90%	92%
家庭	93%	85%	89%	83%	95%	86%	85%	88%
情報	99%	86%	91%	76%	96%	93%	90%	95%
総合	92%	92%	91%	97%	93%	88%	90%	92%

参考1（2016年 第1回 生徒による授業評価）

	A	B	C	D	E	F	G	H
国語	95%	89%	90%	82%	94%	89%	90%	93%
地理歴史	91%	79.8%	83%	87%	89%	79.6%	86%	92%
公民	98%	92%	96%	97%	100%	96%	89%	97%
数学	85%	67%	73%	73%	82%	77%	89%	90%
理科	94%	81%	89%	87%	95%	90%	89%	93%
芸術	98%	89%	92%	76%	94%	93%	81%	97%
体育	94%	97%	96%	87%	96%	94%	91%	98%
保健	96%	93%	95%	87%	96%	89%	86%	94%
外国語	94%	83%	87%	91%	90%	88%	91%	94%
家庭	96%	91%	91%	85%	95%	90%	88%	90%
情報	98%	83%	92%	75%	95%	92%	87%	95%
総合	94%	93%	94%	96%	95%	93%	92%	93%

参考2（2016年 第2回 生徒による授業評価）

	A	B	C	D	E	F	G	H
国語	97%	91%	94%	90%	96%	93%	93%	95%
地理歴史	95%	86%	91%	84%	95%	90%	90%	95%
公民	100%	95%	97%	96%	100%	98%	93%	97%
数学	88%	76%	79.9%	84%	86%	83%	91%	92%
理科	97%	85%	92%	93%	97%	94%	91%	94%
芸術	98%	94%	93%	92%	96%	96%	90%	98%
体育	93%	96%	95%	93%	95%	94%	95%	99%
保健	98%	94%	95%	92%	98%	93%	91%	95%
外国語	96%	85%	92%	94%	94%	93%	93%	94%
家庭	97%	96%	93%	91%	95%	93%	92%	93%
情報	100%	87%	95%	88%	97%	91%	88%	99%
総合	93%	93%	92%	95%	94%	91%	92%	94%

#### 4. 教科毎の傾向の分析（項目毎に分析）

##### ○授業内容

###### 「A：授業の準備・教材の工夫」

どの教科も、9割台と高い評価を得ている。授業改善を日ごろから念頭に置いて教材研究が行われている成果であると思われる。

###### 「B：授業の充実感」

数学と理科が7割台である。数学は昨年度第1回授業評価と比べると6割台からの上昇となる。また、理科は昨年度の8割台から7割台に下降したため改善が求められる。

###### 「C：授業の進め方」

どの教科も、8割台以上と高い評価を得ている。昨年度は数学で7割台も今年度は改善が見られた。

##### ○指導方法

###### 「D：生徒主体の授業の工夫」

昨年度第1回授業評価と比べると7割台の数学と芸術に改善が見られた。一方で情報が引き続き7割台と課題が残った。保健がわずかに8割を切った。

###### 「E：説明のわかりやすさ」

昨年度と同様でほとんどの教科が9割台と高い傾向にある。外国語以外は9割台である。

###### 「F：生徒への接し方」

今年度はすべての項目で8割以上であり、地理歴史や数学での改善が見られた。

##### ○本人の取組状況

###### 「G：学習への取組」

全体的に高い傾向にある。昨年度第1回授業評価と比べ、9割台の教科が倍に増えた。

###### 「H：態度・姿勢」

ほとんどの教科において、9割台である。家庭が8割台後半となったが、いずれにしても生徒の評価は高い。